



平成 30 年 5 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社 永谷園ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 永谷 泰次郎
(コード番号 2899 東証第 1 部)
問合せ先 執行役員管理本部経理部長 江 口 輝
(TEL 03-3432-2511)

通期連結業績予想と実績値との差異 並びに営業外費用及び特別損失の計上に関するお知らせ

平成 29 年 5 月 12 日に公表しました平成 30 年 3 月期通期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）の業績予想と本日公表の実績において差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、同じく平成 30 年 3 月期の連結業績において、下記のとおり営業外費用及び特別損失を計上しましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期通期連結業績予想数値と実績値との差異（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	百万円 100,500	百万円 4,850	百万円 4,600	百万円 2,800	円 銭 77.81
実 績 値 (B)	98,899	3,567	3,184	1,659	46.14
増 減 額 (B - A)	△1,601	△1,283	△1,416	△1,141	
増 減 率 (%)	△1.6	△26.5	△30.8	△40.8	
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	80,605	3,098	2,967	1,241	34.52

2. 差異の理由

平成 30 年 3 月期の業績において、売上高は概ね予想どおり推移しましたが、利益面は海外子会社のガバナンス体制構築等に係る一時費用を計上したこと、また、中食その他事業が当初計画を下回ったことに加えて、外貨建資産の為替評価による為替差損を計上したことにより、前回発表予想を下回る結果となりました。

3. 営業外費用の内容及び金額

平成 30 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間において、為替差益 47 百万円を営業外収益に計上していましたが、為替相場の変動により、平成 30 年 3 月期連結累計期間においては、為替差損 444 百万円を営業外費用に計上しました。これは、主に平成 30 年 3 月末時点で当社が保有する外貨建資産を同日の為替相場で評価したことで発生した評価損であります。

4. 特別損失の内容及び金額

当社グループが保有する固定資産について「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損処理を行い、主に中食その他事業におきまして 439 百万円の減損損失を計上しました。なお、平成 30 年 3 月期連結累計期間の減損損失は、同第 3 四半期連結累計期間までの計上額を含め、489 百万円を計上しました。

以 上